

■サウジアラビア：水利電力相が原子力発電所計画について言及

サウジアラビアが同国初となる原子力発電所建設計画に動いている。アブドル・ラフマン水利電力相は2009年8月19日、地元紙に対し同国が原子力発電のパイロットプラントの建設に取り組んでいると述べた。サウジアラビアは経済発展に伴う工業化と急速な人口増加により国内電力需要が急増しており、原子力発電所の建設を模索、2008年5月に米国と民生用原子力協力に関する覚書を締結した。また、2008年1月にはフランスのサルコジ大統領が訪問、原子力開発に対する協力申し入れを行ったことが報じられ、2009年5月には、クリスティーヌ仏経済相が両国間の民生用原子力協力に関する合意が間もなく成立するとの見通しを示している。